

ともに 結ぶ

あらゆる縁を結び
交流を促進する

2030年の出雲の姿



出雲力で、あらゆる縁を結び、交流を促進することで、「縁結びのまち出雲」の魅力を再発見するとともに、市内外を問わず多くの人に知ってもらうことで、出雲に関わる人が増えています。

広域交通ネットワークの確保や街なみ環境を整備することで、交流の利便性が高まっています。

「縁結びのまち出雲」の魅力を発信し、滞在型観光を充実させるとともに、インバウンドの推進を図ることで、出雲を訪れる人が増えています。

移住・定住や結婚支援の取組により、人の縁を結び、出雲に関わる人が増えています。さらに、近隣自治体との広域連携や国際交流も進んでいます。

出雲が誇る歴史文化遺産を保存し活用することで、過去と現在の縁を結び、未来へつないでいます。



1億人

～交流人口（8年間）～

力強い地域経済の実現のため、出雲力の一つである、出雲の知名度を生かしたブランド力や、自然資源や独自の歴史・文化といった魅力を生かし、多くの人との縁を結び、交流を促進していきます。また、中海・宍道湖・大山圏域による広域連携等を通じて、交流を促進していきます。コロナ禍、またコロナ収束後において、今後8年間の交流人口（※）1億人（年平均1,250万人）をめざし各種取組を行います。（コロナ禍前の平成30年実績：1,162万人）

（※）交流人口：観光入込客数で数値化

08 期待（来たい）が膨らむ観光のまち出雲 ★

基本方策

SDGs



世界から「IZUMO」へ

IZUMOの魅力を海外へ発信し、IZUMOの認知度向上を図りながらインバウンド誘客につなげます。

デジタルプロモーションで出雲旅へいざなう

動画やSNSなどデジタルを活用した戦略的かつ効果的なプロモーションを展開し、出雲の認知度向上を図りながら国内外からの誘客を図ります。

「来て、観て、泊まって」出雲で満足

- 「縁結びの聖地」「神話のふるさと」として広く知られ、出雲大社をはじめ、重要文化財に指定された出雲日御碕灯台やジオパークの海岸線、歴史的建造物である須佐神社、伝統的な街なみが残る平田木綿街道、美しい夕日や海岸線を見ることができる多伎エリア、日本三美人の湯として知られる湯の川温泉など、出雲の魅力ある観光資源を効果的に組み合わせた取組を展開し、周遊滞在型観光につなげます。
- 国立公園をはじめとする自然・景観や歴史・文化などを生かした体験プログラムの造成を進めます。

広域観光で楽しむ

中海・宍道湖・大山圏域観光局や山陰インバウンド機構といった広域観光連携組織をはじめ、様々な団体との連携を深め、観光の広域化、多様化への対応を図ります。

日本遺産で魅力を発信

日本遺産「日が沈む聖地出雲」のストーリーや構成文化財を活用し、広く情報発信することで出雲の魅力ある観光地づくり、出雲のブランド力向上につなげます。

「おもてなし」の環境を整える

観光施設の維持、機能向上や、宿泊機能の強化、街なみ環境整備をはじめとする観光客の受入環境の整備を図ります。

photo

09 「住みたい」、「住み続けたい」の縁結び



| 基本方策

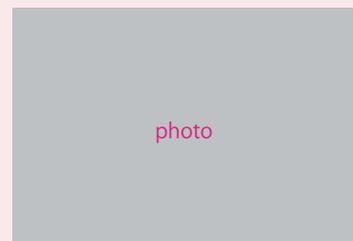


| SDGs



ぴったりの支援で移住・定住の希望をかなえる (住む人も地域も win-win な移住・定住を)

出雲で就業、起業、夢の実現など出雲暮らしを考える県外の方を支援し、移住・定住を促進することで、地域活性化を図ります。



外国人住民が暮らしやすいまちづくり

出雲に住む外国人住民が、健康で安心して安全に暮らすことができるよう、暮らしや働くための環境づくり、子ども・若者支援、災害に備えるための取組などの充実を図ります。

人と人の縁を結び「結婚したい」を後押し

- 結婚を望む方への支援として、縁結びプロジェクト(男女の出会いの場の創出、結婚支援)に取り組むとともに、結婚相談支援を行います。
- 若者が結婚、妊娠、出産、子育てへの理解を深め、希望する将来を描けるよう、必要な知識の習得や自身の将来設計について実践的に考える機会を設けます。

対話を通じたまちづくり

市民の意識や動向を的確に把握するため、対話と交流を重視したきめ細やかな広聴活動を展開し、市政への反映を図ります。

10 ヒト、モノ、コトを短時間でつなぐ



| 基本方策



| SDGs



国内外を結ぶ出雲縁結び空港

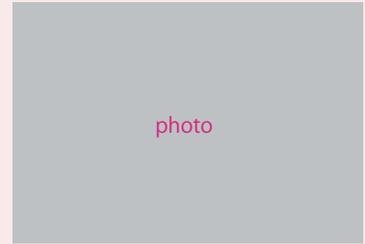
- 出雲縁結び空港を発着する国内及び国際空港路線の開設により、新たなネットワークを構築するとともに、山陰のハブ空港となるよう更なる利用促進に努めます。
- 出雲縁結び空港と周辺地域の調和に配慮し、安心・安全な環境が保たれるよう取組を進めます。

ともに結ぶ



線路がつなぐ旅と暮らし

本市と大都市圏とを結ぶ基幹的交通として、また地域住民の生活交通として重要な役割を果たすJRの利用促進を図るとともに、高速化やアクセス時間短縮等の利便性の向上に資するため新幹線開通への取組を進めます。

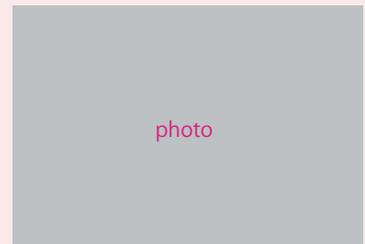


賑わう出雲河下港に

出雲河下港の沖防波堤完成により静穏度が向上し、安定利用が可能となる利点を生かし、広くポートセールスに取り組みます。

魅力ある「みち」づくりをプッシュする

高速道路ネットワークの早期構築に向け、「出雲・湖陵道路」、「湖陵・多伎道路」の整備促進とともに新たなスマートインターチェンジの設置をめざします。



8の字ルートの「みち」づくり

中海・宍道湖・大山圏域において、産業、観光などあらゆる分野のポテンシャルの発揮と災害時の避難や輸送経路の確保等を見据え、人流、物流の基盤となる高規格道路「境港出雲道路」(8の字ルート)の整備をめざします。

11 あのまち・このまち 出雲を結ぶ



| 基本方策



| SDGs

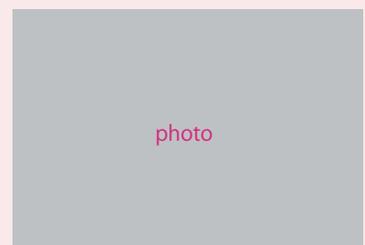
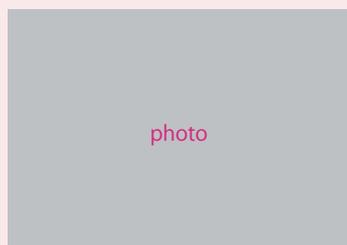


広域連携でスケールメリットを最大限に発揮

- 中海・宍道湖・大山圏域を「あたかも一つのまち」として、観光、産業及び環境分野を柱とした各種事業に取り組むほか、交通ネットワークの整備・拡充を進め、住みたくなる圏域づくりをめざします。
- 近隣自治体との連携をより一層深め、相互の特徴や資源を有効活用することで、相乗効果を発揮する取組を展開します。

ジオパークが大地と人とのつながりを伝える

島根半島・宍道湖中海ジオパークの推進活動を通じて、『大地と人とのつながり』を地域住民など多くの人に伝えることで、自分たちが暮らす地域に誇りを持ち、この地域を守っていくという意識を高めます。





国際交流で「IZUMO人」を育てる

中高生の海外姉妹都市等との相互派遣を実施し、国際感覚を身につけ、国際化社会に対応できる人材の育成を進めます。

国内交流で出雲ファンを増やす

- 経済・文化・スポーツ・観光など幅広い分野での交流を創出することで、市民交流への拡大をめざします。
- 津山市及び諫早市との友好交流は、全国的にも数少ない三市による交流であるため、締結50周年に向けて交流拡大をめざします。

12 いにしへの「財（たから）」を守り、活かす

| 基本方策



| SDGs



出雲のルーツを探り、学び伝える

滅失の危機にある古文書や民具、遺跡などの文化財調査を、関係機関・市民等と協力・連携して持続的に行います。また、2033年に迎える風土記編さん1300年に向けた取組として、風土記に関する調査研究を進めます。

出雲の財（たから）を未来へつなぐ

文化財建造物や考古資料等の指定文化財を良好に維持していくため、適切な時期に保存修理を行います。また、国史跡等については、保存活用計画の策定と史跡整備を進め、良好な保存活用を図ります。

いにしへの出雲を魅せる

博物館展示や講座等の開催のほか、発掘調査成果を情報発信することで、文化財が持つ価値や魅力を伝えます。また、出雲弥生の森博物館を中心に、展示研究を進め、資料収集を強化し、博物館機能の充実を図ります。

photo

過去と未来を結ぶ人を育てる

文化財の担い手、文化財関係団体等を支援・育成し連携して保存活用を推進するとともに、無形民俗文化財等の継承者育成のため、発表機会の提供等の支援を行います。また、歴史体験学習などのふるさと学習を推進します。

photo



ともに 支える

生活基盤を整え
日々の暮らしを
支える



2030年の出雲の姿

出雲力で、生活基盤・環境が整い、市民一人ひとりの生活の質を高めています。

子育て環境や保健・医療・介護・福祉サービスが充実し、一人ひとりの人権と多様性を尊重しながら、個々のニーズに応じた支援が行われ、子どもから大人までたくさんの笑顔であふれています。

道路や上下水道、公共施設などの社会インフラの整備や地域公共交通などの生活基盤が整い、誰もが快適に暮らしています。

あらゆる場面でデジタル技術が活用されており、誰もが日常的に利用しています。



～合計特殊出生率&健康寿命延伸（8年後）～

子どもを生き育てやすい環境を整え、乳幼児期から高齢期まで住みやすいまちづくりに向けて、合計特殊出生率（1人の女性が産む子どもの平均数）上昇と健康寿命（65歳平均自立期間（※））延伸をめざします。

「出雲市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」の人口ビジョンにおける、本市がめざす2030年の合計特殊出生率は、2.1です。（2020年の合計特殊出生率1.72）

また、人生100年時代を迎える中で、健康づくり・介護予防に取り組める環境を整備するとともに、何歳になっても、役割、生きがいを持って地域や社会に関われるよう、様々な社会参加を促し、予防・健康づくりを進め、8年後には健康寿命が1年延伸することをめざします。（本市の2011年（H23）～2015年（H27）の65歳平均自立期間の平均値 男性：17.54年 女性：21.00年）

なお、2019年に策定された国の「健康寿命延伸プラン」において、国は2040年までに健康寿命を3年以上延伸（2016年比）することをめざしています。

※65歳平均自立期間：65歳以降、日常的に介護（要介護度2以上）を必要としないで、自立して生活ができる期間のこと。島根県も同じ指標を使用。

13 「産みたい」「育てたい」を応援



| 基本方策



| SDGs



子育てしやすい環境をつくる

- あらゆる子育て世帯をサポートするため、仕事と子育てが両立しやすい環境づくりや、経済的負担の軽減、孤立感の緩和、外国籍保護者へのサポート、親子のきずなづくりなど、安心して楽しく子育てができる環境を整えます。
- 子どもを望む夫婦が不妊・不育症治療を受けやすい環境を整備します。

子ども・若者を地域で育て、見守る

- 地域における見守り活動や、体験・交流活動の充実に向けた支援に努めます。
- 関係機関の連携により、不登校、ひきこもり、ヤングケアラー(日常的に家族のケアをする子ども)などの困難を抱える子ども・若者の支援の充実を図ります。

photo

photo

14 ワーク・ライフ・バランスで自分らしい生き方を



| 基本方策



| SDGs



- 事業所(働く場)でのワーク・ライフ・バランスの推進やディーセントワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の実現に向けた啓発を行います。
- 市民が性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画のまちづくりを進めます。

photo

15 いつまでも元気、ずっと現役で



基本方策



SDGs



生涯現役の社会をつくる

高齢者が能力や経験を生かして就業したり、地域を支える活動の担い手として活躍できるように、様々な社会参加を促し、一人ひとりが役割や生きがいを持って暮らすことのできる社会づくりを進めます。

健康管理をし、健康寿命を延ばす

健康診査やがん検診の受診勧奨により、自己管理を支援し、疾病の早期発見、早期治療につなげます。

「食」から豊かな人生を

市民が主体的に食に関心を持ち食育を実践できるよう、関係団体と協働して、食に関する取組を展開します。

photo

16 誰もが大切にされる社会をめざして



基本方策



SDGs



多様な価値観を認め、人権意識を高める

- 市民一人ひとりが人権の意義や重要性を理解し、相手の立場に立って行動できるよう幼児から高齢者まで、生涯を通じた人権教育・啓発を推進し、同和問題をはじめとする全ての差別解消に努めます。
- 国籍、性別、性的指向、性自認、年齢、障がいの有無などに関わらず、一人ひとりの個性、価値観などが大切にされ、共に生き、支え合う地域社会の実現をめざします。
- DV(ドメスティック・バイオレンス)は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であり、その予防と被害からの回復のための取組を推進し、暴力の根絶をめざします。

ともに支える



多様性を認めあい、みんなでつくる ～多文化共生～

国籍や言語、文化、価値観の多様化が進む中で、日本人住民と外国人住民が、相互にコミュニケーションを促進し、お互いを認め合い、多様性を生かしながら、安心して暮らせるまちづくりをみんなが進めます。

多様性を認める社会の実現 ～ソーシャルインクルージョン～

- 建築物、道路、公園のバリアフリー化の促進や啓発により、障がい者や高齢者をはじめ全ての人々が安心して快適に暮らし、社会参加することができるまちづくりを推進します。
- 全ての人々が「障がい」への理解を深め、障がいのある人もない人も、共に生き、支え合う地域社会の実現をめざし、啓発活動を推進します。

photo

photo

photo

17 ぬくもりのある福祉サービスを

| 基本方策



| SDGs



誰もが自分らしく活躍できる社会を ～地域共生社会～

複雑化、複合化する福祉ニーズに対応できる総合相談体制の強化や、地域住民や関係団体等との連携・協働により、誰もが役割と生きがいを持ち、自分らしく活躍できる地域共生社会の実現をめざします。

障がい者の自立と社会参加を支える

障がい者等が自らの意思決定にもとづき、地域の構成員として暮らし続けられるよう、福祉サービス等の提供体制や地域の支援体制を整備します。

高齢者の暮らしを支える

- 高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、医療・介護関係者の連携を深め、地域包括ケアを推進します。
- 健康づくり、介護予防、交流の場の立ち上げを支援するとともに、参加を促します。
- 認知症への理解を深め、認知症の人やその家族への見守り、支援につなげます。
- 身近なつながりの中で、高齢者の困りごとを手伝う、支え合いの体制づくりを進めます。
- 高齢者が必要な介護サービスを受けられるよう、介護サービス基盤の整備を進めるとともに、ICTやロボットなどの最新技術の活用を推進し、介護人材不足の解消に努め、サービス提供体制の維持を図ります。

photo

photo

ともに支える



18 地域特性を生かして安心な医療を

| 基本方策



| SDGs



質の高い効率的な医療の提供

- 出雲医療圏において医療機関の機能分化・連携強化を推進するとともに、持続可能な質の高い効率的な医療提供体制の充実に取り組みます。
- 総合医療センターにおいては、引き続き、救急医療や予防医療を提供するとともに、高度急性期病院の後方支援や在宅医療を推進します。
- 市立診療所においては、関係機関との連携のもと、医療過疎地での医療や休日・平日夜間における初期救急医療の提供体制を確保し、市民が適切な医療を受けることができるよう安定的に運営します。

photo

19 地域とともに持続可能な中山間地域を



| 基本方策



| SDGs



中山間地域に新たな風を

うみ・やま(中山間地域)応援センターの4つの支部に地域支援員を配置し、地域おこし協力隊員とともに、中山間地域の支援及び活性化を図ります。また、様々な地域課題の解決に向け、地域のサポート体制を強化します。

中山間地域のポテンシャルを生かす

自然豊かな中山間地域の魅力を生かした企業立地の支援や、キャンプやグランピングなどのアウトドア、滞在型観光施設など、中山間地域の持つポテンシャルを生かしたツアー造成などで、交流人口を増やし、地域の活性化を図ります。



安心して住み続けられる中山間地域を

- 地域農業を支える担い手の確保・育成や、課題解決に向けた自発的な取組の支援により、中山間地域活性化を図り、地域コミュニティの維持につなげます。
- 有害鳥獣対策による農地等の被害防止、市道の防草対策と支障木ししょうぼく(通行の妨げになる木)の伐採による通行の安全性向上に努めます。



20 出雲のインフラを整え「安心」を支える

基本方策



SDGs



地域の「かわ・みち」づくりで生活を豊かに

- 利便性の向上に向けて国道及び県道の整備を国及び県に強く要望するほか、市道及び生活道路の整備を進め、安全で利便性の高い幹線道路網の構築と生活環境の改善を図ります。
- 橋梁、トンネル等の長寿命化を図るため、計画的な予防保全を進めます。
- 重要な生活基盤である排水路について、計画的に改良整備を実施するとともに、地域間の整備水準の均衡を図り、快適な生活環境づくりを推進します。
- 通行者の安全確保のため、歩道整備など地域生活の安全対策に努めます。

住まいを整える

公営住宅等の計画的な大規模修繕・建替事業により、住生活の「質」の向上を図るとともに、市民ニーズに応じた整備により、市民が安心して暮らせるセーフティーネット住宅の提供に努めます。

上下水道で快適な生活を支える

- 新規水源の開発、耐震化などによる、災害に強い強靱きょうじんな施設を構築し、安全で安心な水の安定供給を図ります。
- 汚水処理の未普及解消に向け、公共下水道事業及び合併処理浄化槽の効率的かつ計画的な整備を進めるとともに、施設の長寿命化を図ります。

利便性と癒しの都市空間を

- 市の中心部にある老朽化や用途廃止した公共施設等について、機能の集約化、再配置及び整備を行い、市民の利便性の向上を図ります。
- 老朽化した平田及び斐川行政センターについては、地域における行政サービスの拠点として、また災害時における災害対応の拠点として整備します。
- 幹線街路を計画的に整備し、中心市街地の整備を進めます。また、出雲市駅付近連続立体交差事業(第二期区間)の実現に向けた取組を実施します。
- 公園・緑地が持つ多くの機能を十分に発揮でき、安心して利用できるよう、適切な維持管理及び再整備、修繕に努めます。
- 地籍調査事業について、国・関係団体等の各種事業を積極的に活用し、一層の地域連携を図りながら事業を着実に推進します。

みんなのための地域内交通

- 活力ある地域づくりのため、バス路線の維持を含め、持続可能な新たな交通システムの構築に努めます。
- 貴重な生活路線であり観光振興の要となる一畑電車は、事業者の更なる経営努力と国・県・沿線市の適切な支援により、路線の維持・充実に努めます。

グリーンステップC谷を生かす

斐伊川放水路事業残土処理場(グリーンステップC谷)の整備について、地域の発展や定住につながる利活用の整備方針を示すとともに、周辺の整備も進めます。

出雲らしい景観を守りぬく

- 地域の景観要素を生かしながら、道路、公園や建築物など都市施設の景観整備を推進します。
- 大規模な建築物・工作物の建設などに対し、ゆるやかな規制・誘導を図り、市民・事業者の協力を得ながら、良好な景観を形成していきます。
- 出雲地域独自の自然・歴史的景観資源である築地松について、県とともに保全、PRに努めます。

photo

photo

21 デジタルの力で未来をデザイン

| 基本方策



| SDGs



ともに支える



市民サービスのデジタルファースト

- 年齢、性別、国籍、居住する地域等に関わらず、市民が自身にとって最適なサービスを、簡単に利用できるようにします。
- サービスデザイン思考を取り入れた施策立案を行い、市役所の業務改革を進め、迅速で効率的な行政運営を実現します。

まちづくりのデジタルファースト

防災、福祉・医療、都市形成・交通、教育等のあらゆる分野でデジタル技術を効果的に活用することで利便性を高め、市民がいきいきと暮らすことのできるまちを実現します。

産業・観光のデジタルファースト

- 規模や業種を問わず、デジタル技術を活用して柔軟な働き方や生産性の向上に取り組む事業者を増やします。
- 行政・民間ともに、市民本位・顧客本位の発想のもと、デジタル技術とマーケティングの手法を効果的に活用し、定住人口、交流人口、関係人口の増加をめざします。

ともにデジタルファースト

- 官民が共通の目標を持ち、互いの強みを生かしながら地域課題の解決と価値創造を促進し、デジタルを活用した出雲発のイノベーション創出を図ります。
- 市民、事業者及び行政が、デジタル化に対する意識を高め、ともにデジタルファーストを牽引^{けんいん}できる人材の育成を推進します。
- デジタル技術に不慣れな人にも寄り添いながら、人にやさしいデジタル化に努めます。

photo